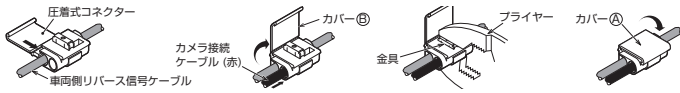


汎用バックカメラ			
形名 BC-100 取付要領書			
万一、内容物が不足がございましたらお買い上げの販売店にご連絡をお願いいたします。			
※イラストと内容物の形状が実際と異なる場合があります。			
カメラ本体 (4m) *1	コネクタハウジング	カメラ接続ケーブル (4m)	結束バンド
両面テープ	六角レンチ	圧着式コネクタ	●取付要領書 (本書) ●保証書

*1 破損防止のため端子部にチューブを被せています。取り外してご使用ください。チューブは取り外し後、使用しません。

<圧着式コネクタの使いかた>

1) ~ 4)の手順で取り付けを行ってください

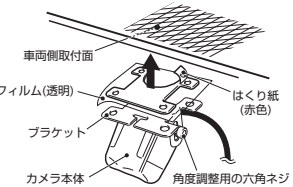


- 1) 車両側信号ケーブルから信号を取り出す位置を決め、圧着式コネクタ内に通す
- 2) カバー③を折り返し、指でパチンと音がするまで確実に押し込む
本体ユニット側ケーブルの先端を圧着式コネクタに差し込む (側面に当たるまでケーブルを差し込んでください)
- 3) 上面の金具をプライヤーなどではさみ込み、車両側信号ケーブルと本体ユニット側ケーブルを固定する (ケーブルが外れないように確実に固定してください)
- 4) カバー④を折り返し、指でパチンと音がするまで確実に押し込む

三菱電機株式会社 〒100-8310 東京都千代田区丸の内2-7-3(東京ビル)
N871L69939 14-02(A3)

③ カメラの取り付けについて

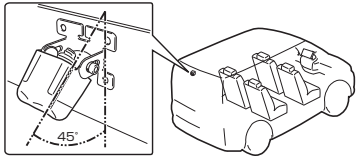
- 1) 貼り付け面が曲面の場合は面にあわせてブラケット部を曲げる
- 2) カメラブラケットの両面テープのフィルム、はくり紙 (赤色) をはがす



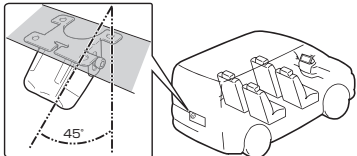
- 3) カメラの向きに注意し、カメラブラケットを車両側取付面 (カメラレンズの中央から車両センター±40cm (推奨値)、地面から50~200cm以内の箇所) に貼り付ける (垂直面から約45°、水平軸が地面と平行、真後ろ)

【貼付例】

(バックドアなどへ取り付ける場合)



(リヤガーニッシュなどへ取り付ける場合)



注意事項

- ※ カメラ設置位置が車両センターから外れるにつれ画像が歪みます。なるべくセンターに近い位置へ設置してください。
- ※ 取付位置によってはカメラ映像にバンパー等の車両部品が映り込む場合があります。
- ※ 貼り付け面の汚れは必ずきれいに拭き取ってください。少しでも汚れが残っていると十分な接着力が得られません。
- ※ はくり紙をはがした後は、接着面に手を触れないでください。
- ※ 貼り付け時は指などで強く押し付けてください。
- ※ 接着力が低下するので貼り直しはしないでください。
- ※ 気温が低いとき (20℃以下) は接着力が低下しますので、接着面を暖めてから貼り付けてください。
- ※ 雨天時など湿気の多いときは接着力が低下し、走行中にはかかる危険性がありますので、貼り付け作業は天気の良い日中に行ってください。
- ※ 貼り付け後24時間以内は接着状態が不完全ですので水をかけたり、力を加えたりしないでください。

注意事項とお願い

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示とともに、取り扱い上の注意点を記載しています。絵表示は次のような意味を示しています。

警告 この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意 この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

このような絵表示は、注意 (警告を含む) しなければならない内容です。

このような絵表示は、禁止 (やめてはいけないこと) の内容です。

この絵表示は、必ず行っていただく強制的な内容です。

警告

禁止 運転者は運転中に、画像を注視しない。前方不注意となり事故の原因となります。道路交通法により、運転者が走行中に画像を注視することは禁止されています。

運転者は走行中に複雑な操作をしない。運転中に複雑な操作をすると、前方不注意となり事故の原因となりますので、必ず安全な場所に車を停車させてから行ってください。

画面が映らない、音がないなどの故障状態で使用しない。事故、火災、感電の原因となります。

本機はDC12V マイナスアース車専用です。大型トラックや寒冷地仕様のディーゼル車などの24V車での使用はしない。火災や故障の原因となります。

機器内部に水や異物を入れない。発煙、発火、感電、故障の原因となります。

カメラは周囲確認の補助装置です。カメラの画像だけを見て運転しない。カメラ画像で表示できる範囲には限りがあるため、人や障害物に接触する恐れがあり、事故の原因になります。

カメラ使用時も目視による安全確認を必ず行う。カメラの死角になっている人や障害物に接触する恐れがあり、事故の原因となります。

必ず行う バックする際はゆっくりした速度で運転する。カメラの画像は目視と距離感が異なるため、人や障害物に接触する恐れがあり、事故の原因となります。

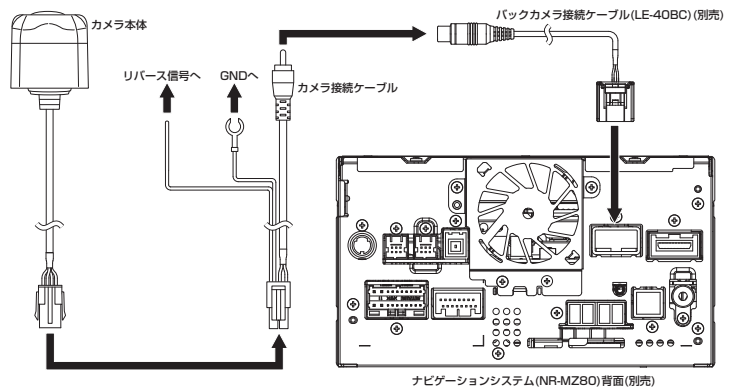
万一、異物が入った、水がかかった、煙がでる、変な臭いがするなど異常が起これば、ただちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店が弊社代理店に相談する。そのまま使用すると事故、火災、感電の原因となります。

本機を分解や、改造をしない。故障、火災、感電の原因となります。

分解禁止

④ 接続方法

(例) NR-MZ80 と本機を接続する場合

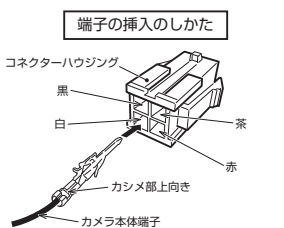


コネクタハウジングについて

カメラ本体の端子を奥まで差し込んでください。

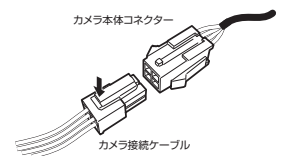
注意事項

- ※ 誤挿入した場合は取り外しが困難です。誤挿入しないよう注意してください。
- ※ 汚れた手 (手袋) などで端子を触らないでください。端子が汚れると接触不良の原因となり、カメラの映像が映らない場合があります。
- ※ 端子挿入後は、リード線が固定されていることを確認してください。



コネクタの脱着について

コネクタ接続時は確実に奥まで差し込んでください。また取り外す際には、矢印の部分を押しながらコネクタを引き抜いてください。



■ 取付・配線時などのご注意

警告

- 禁止** 本機を、前方の視界を妨げる場所や、ステアリング、シフトレバー、ブレーキペダルなどの運転操作を妨げる場所など運転に支障をきたす場所、同乗者に危険を及ぼす場所などには絶対に取り付けない。交通事故やけがの原因となります。
- エアバッグの動作を妨げる場所には、絶対に本機の取り付けと配線をしない。エアバッグ動作を妨げる場所に取付・配線すると交通事故の際、エアバッグシステムが正常に動作しない原因となり危険です。
- 電源コードの被覆を切って、他の機器の電源を取ることは絶対に止める。電源コードの電流容量がオーバーし、火災、感電の原因となります。
- 車体のボルトやナットを使用して機器の取り付けやアースを取る場合は、ステアリング、ブレーキ系統やタンクなどの保安部品のボルト、ナットは絶対に使用しない。これらを使用しますと制動不能や発火、事故の原因となります。

注意 車体に穴を開けて取り付けの場合は、パイプ類、タンク、電気配線などの位置を確認の上、これらと干渉や接触しないよう注意して行う。誤った穴開けをすると火災の原因となります。

- 必ず行う** 取り付け作業前には、バッテリーのマイナス端子を外す。ショート事故による感電やけがの原因となります。
- コード類は、運転操作の妨げとならないよう、結束バンドでまとめておく。ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどに巻き付くと事故の原因となり危険です。
- 取り付けと配線が終わったら、ブレーキやライト、ホーン、ウィンカーなどの電装品が元通り、正常に動作することを確かめる。正常に動作しない状態で使用すると火災や感電、事故の原因となります。

注意

禁止 カメラ本体に無理に力を加えたり、高压洗浄は行わないでください。カメラが外れたり、角度がずれて故障や事故の原因となることがあります。

注意 車体やねじ部分、シートレールなどの可動部にコード類をはさみ込まないように配線してください。断線やショートにより、事故や感電、火災の原因となることがあります。

注意 コード類の配線は、高温部を避けて行ってください。コード類が車体の高温部に接触すると被覆が破れショートし、火災、感電の原因となることがあります。

必ず行う 落下させるなどの、強い衝撃を与えないでください。機器の故障、けがなどの原因になることがあります。しっかりと固定してください。

必ず行う 必ず付属の部品を取付要領書の指定通りに使用してください。指定以外の部品を使用すると、機器内部の部品損傷や、しっかりと固定できず外れるなど、事故や故障、火災の原因になることがあります。

取付要領書で指定された通りに接続してください。正規の接続を行わないと、火災や事故の原因となることがあります。

エアバッグ装着車に取り付ける場合は、車両メーカーに作業上の注意事項を確認してから作業を行ってください。エアバッグが誤作動する原因となることがあります。

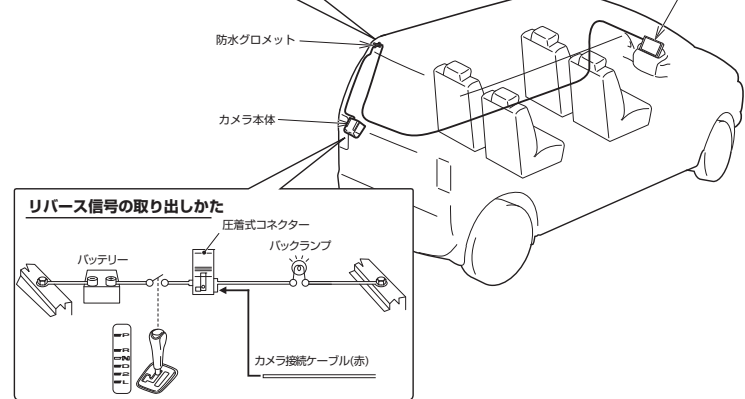
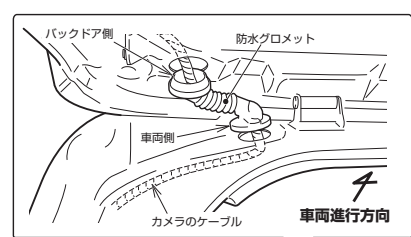
本機の取付・配線、場所変更は安全のため必ずお買い上げの販売店へ依頼してください。専門技術が必要です。誤った配線をした場合、車に重大な支障をきたす場合があります。

他の機器と接続する場合は、各機器の取扱説明書も併せてよく読みの上、正しくお使いください。

⑤ 各種ケーブルを接続する

1) 各種ケーブルを配線する

配線例



注意事項

- ※ カメラのケーブルはバックドアなどの開閉に支障のない位置に固定してください。
- ※ 配線後バックドアなどの開閉を何度か行い、ケーブルのかみ込み、つぶれ、突っ張った状態になっていないことを確認してください。
- ※ ケーブルを車室内へ引き込む場所から水漏れなど無いことを確認してください。
- ※ 水漏れなどの恐れがある場合は、市販の防水テープ、シーリング材などで防水を施してください。
- ※ カメラのケーブル、カメラ接続ケーブルはノイズの原因となる恐れがあるので、ラジオアンテナ、アンテナ線からなるべく離して配線してください。

① バックカメラを取り付ける前に

貼り付け・配線をするためには、トランク周りやリアゲート周りの内装・外装を一時的に取り外す必要がありますのでご了承ください。

- ・車種によって、取り付けられない場合があります。販売店にご相談ください。
- ・ショート事故防止のため必ずバッテリーのマイナス端子を外してから作業を行ってください。
- ・バックカメラを取り付ける前にあらかじめバックカメラを仮組みし、以下について確認してください。
 - ◇ カメラが車両や車両部品に干渉しないこと、バックドアの可動部にも干渉しないこと
 - ◇ カメラブラケット取付面は凸凹が少なくカメラブラケットの両面テープの接着面がすべて接着できること
 - ◇ 角度調整が容易にできること
 - ◇ 各種ケーブルの配線ルート確認 (防水グロメット内を通すこと)

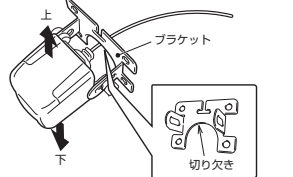
注意事項

- ※ 必ずケーブルを仮止めし、配線ルートやケーブルの長さなどを十分に検討してください。
- ※ カメラを車両の最端部に取り付けると車検に通りません。(車両全長が変更となるため) 必ず全長内に収まる取り付けを行ってください。

② カメラ本体について

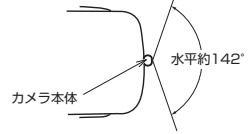
1) カメラの上下の判別方法 (ブラケットの切り欠きを下向きに置きます。)

- ・ブラケットの形状からカメラの上下を判別します。



2) カメラの描写エリア

上から見た図



横から見た図



3) カメラ映像を表示するには

- ・車両のイグニッションキーをONにして、シフトレバーをリバースに入るとバックカメラ映像に切り替わります。(カメラの映像はルームミラーと同様の映像 (鏡像映像) が表示されます。)

故障かな?と思ったら

症状	原因	処置
カメラ映像が表示されない	・イグニッションキーがONになっていない。 ・リバース信号がONになっていない。 ・誤配線、配線が断線している。 ・接続ケーブルが接続されていない。	イグニッションキーをONにしてください。 シフトレバーをリバースに入れてください。 接続を確認してください。 接続要領を確認してください。
ディスプレイ上に明るい筋が入る	・太陽光や強い光が入射したためにおこる現象で故障ではありません。(強い光が入射しないようにしてください)	—
カメラ映像がちらつく	・蛍光灯などの照明の場所ではカメラ映像がちらつく場合がありますが故障ではありません。	—
カメラ映像が揺れる	・角度調整用の六角ネジが緩んでいる。 ・カメラブラケットが確実に取り付けられていない。	カメラブラケットを確実に取り付け、角度調整用の六角ネジを締め付けてください。
カメラ映像が不鮮明	・レンズが汚れている。	柔らかいぬれた布でレンズ部分を軽くふいてください。
カメラ映像が映るとラジオにノイズが入る	・カメラのケーブルからラジオにノイズが混入している。	配線経路を変更してください。

仕様

電源電圧	DC6V ~ 16V
アース方式	マイナスアース方式
消費電流	約 35mA 以下 (12V)
出力映像	鏡像映像 (NTSC カラー信号準拠)
映像出力レベル	1.0Vp-p (75 Ω 終端)
撮像素子	1/3.6型カラー CMOS 映像
有効画素数	640(H) × 480(V)
レンズ部	焦点距離 約 1.1mm、明るさ F=2.2
画角	水平：約 142°、垂直：約 118°
動作温度範囲	カメラ部：-40 ~ +85℃
保存温度範囲	カメラ部：-40 ~ +105℃
外形寸法 (W × H × D)	カメラ本体部: 23.7 × 23.7 × 24.8mm (ブラケットを除く)
重量	カメラ本体部：約 85g (ケーブル含む)